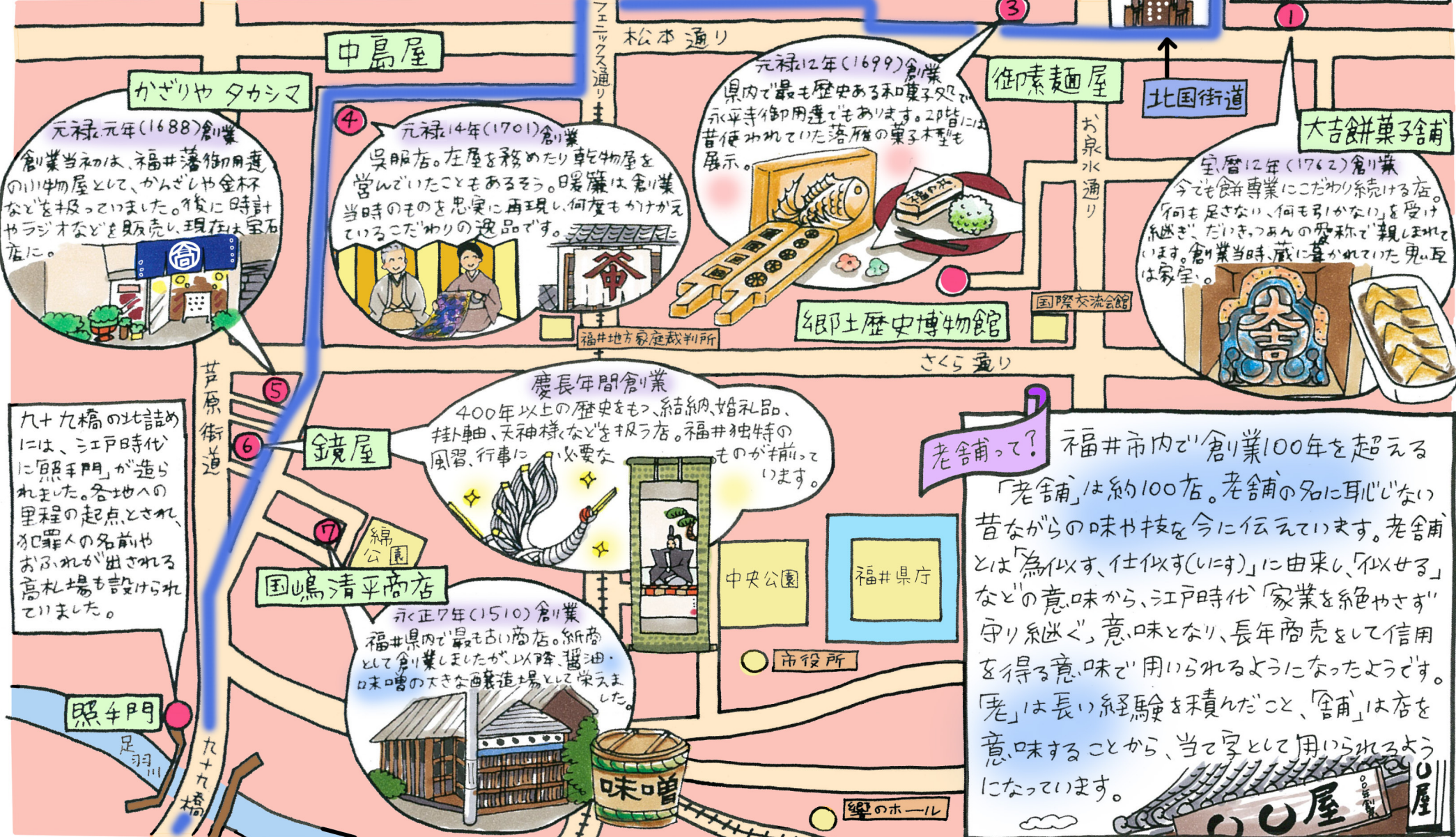


創業100年超！世代を超えて支持される 福井の老舗と文化をたずねて

～北国街道篇～

Stage 10は、老舗を訪ねて福井を知る旅。北国街道沿りに今なお伝わる、秘蔵秘話満載のまち歩きです。

加賀口御門址 慶長6年(1601)
系古城秀康が最も警戒すべき加賀藩前田家への備えとして築いた門址。福井土城には7つの出入り口があったがこの門は中でも一番堅固に造られました。



かざりや タカシマ

元禄元年(1688)創業
創業当初は、福井藩御用達の川中物屋として、かんざしや金杯などを扱っていました。後に時計やラジオなどを販売し、現在は宝石店に。

中島屋

元禄14年(1701)創業
呉服店。在屋を移めたり靴物屋を営んでいたこともあるそう。暖簾は倉り業当時のものを忠実に再現し、何度もかけかえられているこだわりの逸品です。

元禄12年(1699)創業
県内で最も歴史ある和菓子処で、永平寺御用達でもあります。2階には昔使われていた落雁の菓子木型も展示。

御素麺屋

北国街道

大吉餅菓子舗

宝暦12年(1762)創業
今でも餅専業にこだわり続ける店。「何も足さな、何も引かない」を受け継ぎ、だいきつあんが愛称で親しまれています。創業当時、蔵に置かれていた鬼は家室。

九十九橋の北詰めには、江戸時代に「照手門」が造られました。各地への里程の起点とされ、犯罪人の名前やおふれが出される高札場も設けられていました。

芦原街道

鏡屋

慶長年間創業
400年以上の歴史をもつ、結納、婚礼品、掛軸、天神様などを扱う店。福井独特の風習、行事に必要なものが揃っています。

国嶋清平商店

永正7年(1510)創業
福井県内で最も古い商店。新商として創業しましたが、以降、醤油・味噌の大きな西薬造場として栄えました。

老舗って？ 福井市内で創業100年を超える「老舗」は約100店。老舗の名に耳慣れない昔ながらの味や技を今に伝えています。老舗とは「為似す、仕似す(いす)」に由来し、「似せる」などの意味から、江戸時代「家業を継色やせず」守り継ぎ、意味となり、長年商売をして信用を得る意味で用いられるようになったようです。「老」は長い経験を積み重ねたこと、「舗」は店を意味することから、当て字として用いられるようになっています。